

平成22年度 北九州支部研修会の活動報告

北九州支部 山形美智恵

北九州支部では、1月14日(金)に改質アスファルト協会から講師を招き、舗装の長寿命化に関する研修会を行いました。県および市町職員合わせて18名が参加しました。

研修会は「長持ちする舗装の構築」と題し、舗装の調査、破損の種類、補修工法の選定について、スライドを用いて行われました。

舗装を長持ちさせるには、破損の状況の確認、破損状況に見合った補修、ライフサイクルを踏まえた補修を定期的かつ計画的に行っていく必要があります、これが道路管理のコスト縮減にもつながるとのことでした。

破損状況を把握するには、日常管理による目視確認が不可欠ですが、状態が悪ければより詳細な調査が必要となります。路面性状調査によりひび割れ率、わだち掘れ、平坦性を調査することで、MC I(維持管理指数)を算出します。この指数は補修が必要な箇所の把握や予測に利用でき、4未満の場合に補修箇所として選定されています。

補修工法は構造調査や支持力調査により破損の度合いを把握することで決定できます。この調査をより効率的に行う方法として、普及の進んでいるFWDたわみ量調査の説明を受けました。たわみ量を測定・解析することで、路床を含めた舗装全体の健全度、路床の支持力(CBR)、舗装体の健全度(残存TA0を推定)、アスファルト層の強度(弾性係数)を把握することができます。この結果により、打換えによる構造強化をするべきか、オーバーレイによる表層修繕で十分かなど、最適な補修工法を選定することができます。

また、破損の種類や原因について写真や図解により説明を受け、ライフサイクルや補修コストの考え方を学び、適切なタイミングで適切な補修を行うことが重要であることを理解しました。その上で、経済的で効果の高い工法について、施工事例と併せて紹介してもらいました。現地で発生したアスファルト廃材を骨材として利用する路上路盤再生工法、応力緩和性に優れリフレクションクラックを抑制する改質乳剤やシート工法など、今後の道路補修で大いに活用できる内容でした。

この研修会で、舗装アセットマネジメントの重要性についての理解を深めることができました。

以上、平成22年度北九州支部研修会の報告でした。今後とも土木技術職員の技術力向上を図るため、支部活動を行っていきたいと考えております。

支部活動報告

研修状況



研修状況

